

○副議長（福島直子君）次に、大山しょうじ君。

〔大山しょうじ君登壇〕

○大山しょうじ君 港北区選出の大山しょうじです。

まず、横浜市民の命と健康を守る市民病院、脳卒中・神経脊椎センター、みなと赤十字病院の市立3病院と横浜市立大学附属病院の医師の働き方改革の推進について伺います。

本年4月から、あと1か月と少しですが、診療に従事する勤務医に時間外労働の上限規制が適用される医師の働き方改革が施行されます。本年4月以降、暫定特例水準対象の医師を除き年960時間を超える時間外労働の医師は存在してはならないとされています。

そこでまず、市立3病院及び横浜市立大学病院において、現在時間外の労働時間が年960時間の水準を超えている医師の数とその割合、そして診療科による傾向についてどのようになっているのか、伺います。

4月に向けて市立3病院、横浜市立大学病院もそのための準備、努力をしていると思いますが、4月以降は大丈夫なのか、やはり懸念が残ります。そこで、4月に向けた医師の働き方改革の取組と4月以降の見通しについて伺います。

また、国のほうでは、暫定特例水準対象の医師についても時間外の労働時間が年960時間以内となるようさらなる労働時間の短縮を求めています。そこで、市立3病院、横浜市立大学病院における医師の働き方改革及び安定的な医療提供体制の確保に向けた今後の取組について伺います。

次に、AI英会話など先端技術を使った英語教育の推進について伺います。

私が中学生の頃には、学校の授業では英単語や文法を一生懸命覚え、書くことが中心で、実際に英語で話す機会はあまりなく、代わりにNHKラジオの基礎英語や続基礎英語などを聞いて勉強をしていた時代でした。約40年がたった今では、文部科学省でもグローバル人材育成のための英語力向上事業としてデジタル技術を活用した英語授業の委託事業を公募するなど、先端技術を使った英語教育が求められています。他都市の先進的な取組として、京丹後市や千葉県の公立学校では、AI英会話を活用した授業も展開されています。生徒が英語でタブレット端末に向かって話しかけると生成AIが内容を認識し音声で返答する仕組みで、会話が終わった後には発音や会話の進め方などについて改善点が示されるようです。また、タブレット端末があれば学校だけでなく自宅でも学習ができます。私も昨年ある勉強会でこのAI英会話の取組を知ることとなり、横浜市の学校でも導入できないか教育委員会に提案をしてきました。今は本市の小中学校でも1人1台端末が導入され、こうした先端技術を一人一人のペースや能力に合わせて活用していく環境は整っていると考えます。今回の令和6年度予算案では、AIやメタバースなどを活用したモデル事業が盛り込まれました。大変期待しており、その具体的な取組内容が気になります。

そこで、AIやメタバースなど先端技術を使った英語教育をどのように進めていくのか、

教育長に伺います。

A I 英会話については、仮にモデル校からスタートするにしても、これから横浜市で始まる1人1台端末の持ち帰りや個別最適な学びの実現を考えたときに、A I 英会話のモデル校から全市への展開、活用をスピード感を持って進めていただきたいと思います。そこで、A I 英会話の活用の展望について教育長に伺います。

これからのグローバルな社会では、豊かな語学力を備え、異文化を理解、尊重し、世界で活躍できるグローバル人材の育成がますます求められています。A I やメタバースなどの先端技術も積極的に取り入れながら、課題を探究する活動を通し横浜の子供たちがグローバルな社会で活躍することを期待し、私の質問を終わります。

ありがとうございました。（拍手）

○副議長（福島直子君） 山中市長。

〔市長 山中竹春君登壇〕

○市長（山中竹春君） 大山議員の御質問にお答えします。

市立3病院と横浜市立大学病院の医師の働き方改革の推進について御質問をいただきました。

時間外労働時間が年960時間の水準を超えている医師の数、割合及び診療科の傾向であります。時間外労働時間が年960時間を超える医師数は市民病院が8名で割合にして3%、脳卒中・神経脊椎センターが2名で6%、みなと赤十字病院が29名で13%となります。また横浜市立大学附属病院が1名で0.3%、センター病院が16名で4%となっております。救急部門や長時間のオペを伴う心臓血管外科などは労働時間が長い傾向にあります。

4月に向けた医師の働き方改革の推進、取組と4月以降の見通しであります。各病院において医師の勤務実態を把握、分析した上で医師から看護師へのタスクシフト、タスクシェア、医師事務作業補助者の増員、勤務体制の見直しなどに取り組んでいるところであります。この結果、救急対応など現在の診療体制を維持しつつ、各病院とも時間外労働の上限時間内に収まる見込みとなっております。

医師の働き方改革及び安定的な医療提供体制の確保に向けた今後の取組ですが、市立病院や市大病院と地域の医療機関との役割分担や連携を進めるなど、最適な医療提供体制を構築することでより効率的な医師の働き方につなげてまいります。さらに医療DXに積極的に取り組むとともに、引き続きタスクシフト、タスクシェアなどを進めていきます。これらの取組により、医師の過重労働の防止並びに安定的な医療提供体制の確保を両立してまいります。

以上、大山議員の御質問に御答弁を申し上げます。

残りの御質問につきましては教育長から答弁をいたします。

○副議長（福島直子君） 鯉淵教育長。

〔教育長 鯉淵信也君登壇〕

○教育長（鯉淵信也君） A I 英会話など先端技術を使った英語教育の推進について御質問いただきました。

A I やメタバースなど先端技術を使った英語教育の進め方ですが、グローバルモデル校を3校選定してメタバース教室を設置し、先端技術を活用した英語教育の在り方を費用対効果も含めて研究していきます。児童生徒の1人1台端末を使ってA I による英会話を行ったり、メタバース空間を活用して海外の児童生徒と議論したりするなど先進的な事例の創出に取り組み、成果については本市の英語教育の充実につなげていきます。

A I 英会話の今後の展望についてですが、これからの学校教育においてA I などの先端技術を活用していくことは不可欠だと考えています。令和6年度4月から全校で1人1台端末の持ち帰りをセキュリティー面も考慮した上で始めます。まずはA I ドリル導入の検討やグローバルモデル校での試行を通して、授業や放課後の学びの場面でどのような効果が得られるのか研究していきます。A I 英会話は、現時点では高額なものとなっております。

以上、御答弁申し上げます。